



## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月20日

協議会名:	長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	長洲町は、熊本県北西部に位置し、面積は19.44km <sup>2</sup> 、人口は、15,633人の町である。 快適な暮らしができる安心のあるまちづくりのためには、誰もが公共交通を利用して気軽に移動できる地域公共交通が必要不可欠である。その一環として、公共交通サービスを真に必要とする高齢者等の移動手段の確保を主たる目的とし、「病院や買い物等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保する」ことを目標に掲げ、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統(デマンド型)を組み合わせることで、生活交通ネットワークの充実を進めているところである。

## 概要



【愛称】 きんぎょタクシー

金魚は、長洲町のシンボルであり、この予約型乗合タクシーが今後、長洲町のシンボルになるようにと町民の方が期待を込めて名付けた。

【運行主体】 有限会社 ながすタクシー

地域公共交通の活性化及び再生に向けて、長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会を立ち上げ、住民の移動ニーズを把握し、問題点を明らかにしたうえで、町内及び荒尾市を循環する民間バス路線への補助を廃止し、その財源をもとに平成23年10月からフルデマンド型の長洲町予約型乗合タクシー（きんぎょタクシー）を運行している。

きんぎょタクシーは、公共交通サービスを真に必要な車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要な不可欠な公共交通であるため、地域公共交通確保維持事業により、きんぎょタクシーを確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

## 基礎データ

【人口】 15,633人  
 【面積】 19.44平方キロメートル  
 【高齢化率】 36.7%  
 (令和3年11月末現在)

【補助対象の系統数】 1系統

【自治体負担額】 H29: 12,010千円、H30: 12,791千円  
 R1: 12,007千円、R2: 14,821千円

【協議会開催数】 協議会2回

## 計画、目標(Plan)

### 【現況と課題】

新型コロナウイルス感染症の影響により、前年と比較しても利用者が減少している。利用者数の増加を図るためにも、感染症対策に努めながら地域公共交通の適正な体制を維持する必要がある。

### 【目標】

- ・財政負担の維持・抑制に配慮し、運行効率化を図ることで、利用者の利便性向上を目指す。(財政負担額15,000千円以内で運行を維持)
- ・地域公共交通の利便性向上による利用者の増加を目指す。(R3までに: 20,500人)
- ・地域公共交通の利用促進に地域全体で取り組み、地域公共交通を「創り、守り、育てる」気運の醸成を図る。

## 生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

長洲・荒尾地域内フィーダー系統確保維持計画どおり、長洲町予約型乗合タクシー（きんぎょタクシー）を運行することにより、高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保を図った。令和2年9月をもって路線バスの長洲玉名線および長洲港線が廃止となったことを受け、令和2年10月から実証運行を行い、令和3年4月から本格運行を実施するなど、玉名市への交通手段の確保と利便性の向上を図った。

## 実施状況、目標の達成(Check)

地域公共交通の利便性向上による利用者の増加  
 【目標】 8,000人(H22) ⇒ 20,500人(R3)  
 【実績】 17,276人(R3)

財政負担の維持・抑制  
 【目標】 15,000千円以内での運行  
 【実績】 H29: 12,010千円、H30: 12,791千円、R1: 12,007千円、R2: 14,821千円

## 今後の課題、対応(Action)

新型コロナウイルス感染症の影響で、利用者数が減少したため利用者増加の目標は達成できなかった。また、令和2年9月をもって路線バスの長洲玉名線および長洲港線が廃止となったことを受け、玉名市への交通手段の確保と利便性の向上を図るために、令和2年10月から実証運行を行い、令和3年4月から本格運行を実施している。引き続き、利用実態を把握しながら、安心安全かつ便利に利用できるよう利用者に配慮した効率的な輸送サービスを検討していく。